

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (教 育 学) Ph.D.	氏 名 (Candidate Name)	小宮山 道夫
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目 (Title of Dissertation)			
近代日本における進学行動の定着過程に関する研究 —学習者の動態把握を中心として—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教 授	鈴木 理恵
審査委員 (Name of the Committee Member)		准教授	滝沢 潤
審査委員 (Name of the Committee Member)		准教授	奈良 勝司
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、1870年代から1890年代の近代教育制度の定着過程において、学習者が学校という新しい装置を受容し、学校間接続が確立するまでの様相を明らかにすることを目的としている。専門教育や上級学校への進学を主体的に選択する学習者の動態に注目した点に特徴がある。</p> <p>本論文は、序章と終章のほかに8章の本論から構成され、8章は3部に分かれる。</p> <p>序章では、先行研究を整理したうえで、研究の主題や対象について説明している。</p> <p>第1部「医学分野における学校文化の受容過程」では、履歴書分析に基づいて、医師志望者が近代の医療政策に即した教育制度を受容する過程を検討している。第1章で履歴書を史料とした分析手法を提示したうえで、第2章で1870年代から1880年代にかけて医学修業形態が、長期間に及んだ漢方医のもとでの徒弟的修業から短期間で済む医学校へと変化したことを明らかにした。第3章では医師志望者の修業形態の年次変化を検証し、主流だった漢方徒弟修業形態が、1840年代に変化し始め、1870年代に廃れて洋方学校形態に取って代わられたことを明らかにした。</p> <p>第2部「高等中学校制度の地域における受容」では、第五、第二、第四の各高等中学校の地区である九州、東北、北陸を取り上げ、行政文書や新聞記事などを史料として、高等中学校制度への対応を検討している。第4章で福岡・長崎・宮崎・青森・新潟・福井県等の対応について中等教育再編の動きとともに示し、第5章で各地区における高等中学校設立計画に関わる議論の詳細を明らかにすることによって、地域における受容が多様であったことを指摘した。</p> <p>第3部「高等中学校生徒の動態」では、生徒の在学中の動向や進学状況を検討している。第6章で第五高等中学校の入学者・無試験編入者・退学者を分析し、各種統計や文部省年報などでは把握しきれない流動的な生徒の実態を示した。第7章で第二高等中学校を取り上げ、生徒の進級過程や本籍地の分析をもとに、設立後6年で東北地区から入学者を受け入れない学校へと変貌したことを明らかにした。第8章で第四高等中学校の成績簿を史料として進級の実態や判定基準を明らかにした。</p> <p>終章では、各章のまとめと課題が示された。</p> <p>以上のように本論文は、学習者が近代学校を利用するようになり、専門教育や進学のための教育を提供するように設計された高等中学校に順応していく過程を実証的に示したものであり、次の3点で高く評価できる。</p> <p>第一に、近代への転換期における、学習者と学校システムの接続過程を明らかにした点である。前近代から専門的な職業集団として成立していた医学分野において、明治政府による諸政策が実施される以前から学校での学習形態が求められ、それに応じる学校が形成されていくことを指摘した。</p> <p>第二に、教育史上の1880年代の捉え直しをはかった点である。従来は、画期的な学制が確立した当該期は教育政策の動揺期とみなされ、森有礼文政期において近代教育制度が確立したとされて</p>			

きた。これに対して、政府の教育政策と人々の学習観や新たな教育要求との結節を生み出した時期であったと位置づけた。明治政府が用意した枠組みのなかで、人々は主体性を獲得・発揮したとする。

第三に、高等中学校について、史料を博搜して明らかにした点である。高等中学校は、短命であったことや旧制高等学校の前身組織と位置づけられてきたことから、これまで関心が寄せられず、本格的な研究がおこなわれてこなかった。第五、第二、第四という限られた高等中学校ではあるものの、それらの詳細が明らかにされたことの意義は大きい。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和4年2月22日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)